

授業科目 救急蘇生法演習

【担当教員名】 椿 淳裕、松本 香好美		対象学年	3	対象学科	理学
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 臨床現場における救急対応を理解する。また救急蘇生法の概念を理解し、CPR（心肺蘇生法）とAED（自動体外式除細動器）を組み合わせた救急蘇生法を実施できる。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 救急蘇生に必要な呼吸器の解剖と生理について説明できる。 救急蘇生に必要な循環器の解剖と生理について説明できる。 救急蘇生法が必要な現場に遭遇した場合の対処法を説明できる。 救急蘇生の概念や蘇生の連鎖、感染の予防について理解できる。 気道、呼吸、循環の初期の評価について理解し、実施できる。 気道の確保について理解し、実施できる。 効果的なCPRを実施できる。 AEDとその使用方法を理解し、CPRと組み合わせて実施できる。 吸引の操作方法を理解し、実施できる。 吸引操作時におけるリスク管理について理解できる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション				
2	救急蘇生に必要な呼吸器の解剖と生理 1			1	講義
3	救急蘇生に必要な呼吸器の解剖と生理 2			1	講義
4	救急蘇生に必要な循環器の解剖と生理 1			2	講義
5	救急蘇生に必要な循環器の解剖と生理 2			2	講義
6	臨床現場における救急対応 1			3	講義
7	臨床現場における救急対応 2			3	講義
8	臨床現場における救急対応 3			3	講義
9	救急蘇生の概念、蘇生の連鎖、感染の予防			4	演習
10	気道、呼吸、循環の初期の評価			5	演習
11	気道の確保、CPR（心肺蘇生法）			6, 7	演習
12	AED（自動体外式除細動器）を用いた応急救護			8	演習
13	吸引操作			9	演習
14	吸引操作とリスク管理			10	演習
15	まとめ			1-10	演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		改訂版 BLS：写真と動画でわかる一次救命処置 (DVD 付き)	特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会 (著)、平出敦 (監修)、小林正直 (編集)	学習研究社	2012・2,400 円＋税
参考書		リハビリテーションリスク管理ハンドブック 改訂第2版	亀田メディカルセンター	メジカルビュー	2012・4,200 円＋税
その他の資料		必要に応じ、資料を配布			
【評価方法】 定期試験で60点以上であることが単位取得において必須である。その点数に出席状況、意欲的に取り組む授業態度等を加味し、成績を総合的に評価する。 評価の割合は、定期試験50%程度、その他50%程度とする。			【履修上の留意点】 演習は30名程度のグループで行います。動きやすい服装で演習に参加して下さい。吸引の演習では医務衣を着用して参加してください。		